

米国損害保険市場の動向（2016年実績）

I. はじめに

当研究所では、「米国損害保険市場の最新動向」を継続的に発表してきた¹。本稿では、2016年の米国損害保険市場の概況をまとめており、第II章では米国損害保険市場の動向を種々の財務指標に基づいて示し、第III章では個人保険分野と企業保険分野それぞれを概観する。

II. 米国損害保険市場概況

2016年の米国損害保険市場は、損害率の悪化により4年ぶりに保険引受損益がマイナスとなる厳しい1年となった。正味収入保険料は2015年から2.6%増加して5,340億ドルとなった。多くの保険会社が保険料の引上げを継続しているが、厳しい競争環境と米国の控えめな経済成長などを反映して、その引上げ率は年々縮小している²。保険引受損益は24億ドルの損失となった。ハリケーンなどの自然災害によるロスと主力の自動車保険のロスの悪化が業績を押し下げた。また、厳しい運用環境を反映して、正味資産運用利益は前年を2.7%下回った。この結果、税引前営業利益は前年を26.1%下回り、純利益も前年を24.0%下回った（《図表1》参照）。コンバインド・レシオは、前年の98.0から100.8に悪化した。

《図表1》米国損害保険会社の収益および契約者剰余金（単位：百万ドル）

		2015年	2016年	対前年比
Net Premiums Written	正味収入保険料	520,511	534,024	2.6%
Net Premiums Earned	正味既経過保険料	512,110	529,162	3.3%
Losses and LAE Incurred	発生損害額（損害調査費含む）	354,959	382,463	7.7%
Other Underwriting Expense Incurred	営業経費	145,136	148,008	2.0%
Net Underwriting Gain (Loss)	保険引受損益	11,157	▲2,385	-121.4%
Policyholder Dividends (PHD)	契約者配当金	3,017	2,944	-2.4%
Net Investment Income	正味資産運用利益	48,765	47,450	-2.7%
Other Income	その他収益	1,524	1,042	-31.6%
Pre-tax Operating Income	税引前営業損益	58,430	43,163	-26.1%
Net Realized Capital Gains (Losses)	実現損益	10,073	8,484	-15.8%
Federal Income Tax	法人税等	10,188	7,316	-28.2%
Net Income	純利益	58,315	44,330	-24.0%
Net Unrealized Capital Gains (Losses)	未実現損益	-23,109	13,794	159.7%
Dividends to Stockholders	株主配当金	-38,497	-28,475	26.0%
Capital Changes & Surplus Adjustment	資本金増減および調整	11,712	-506	-104.3%
All Other Changes in Surplus	その他増減	-9,599	506	105.3%
Policyholders Surplus, Current Period Ended	年度末契約者剰余金	687,808	712,302	3.6%
Return on Equity	自己資本利益率	5.12%	8.33%	62.7%

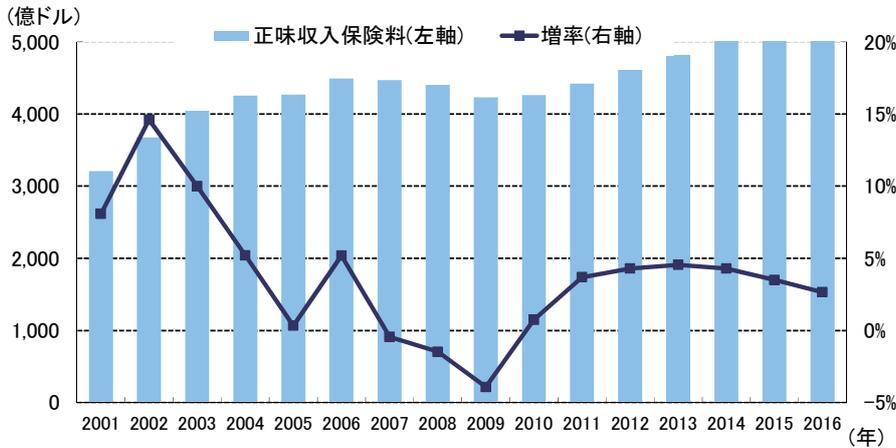
（出典）SNL Financial より損保ジャパン日本興亜総合研究所作成。

¹ 2012年9月のVol.61よりNAIC（全米保険庁長官会議）のデータに基づくデータベースであるSNL Financialを使用している。

² A.M. Best, “BEST’S SPECIAL REPORT Review & Preview”, May 11, 2017, p.3.

1. 正味収入保険料

《図表 2》正味収入保険料の推移

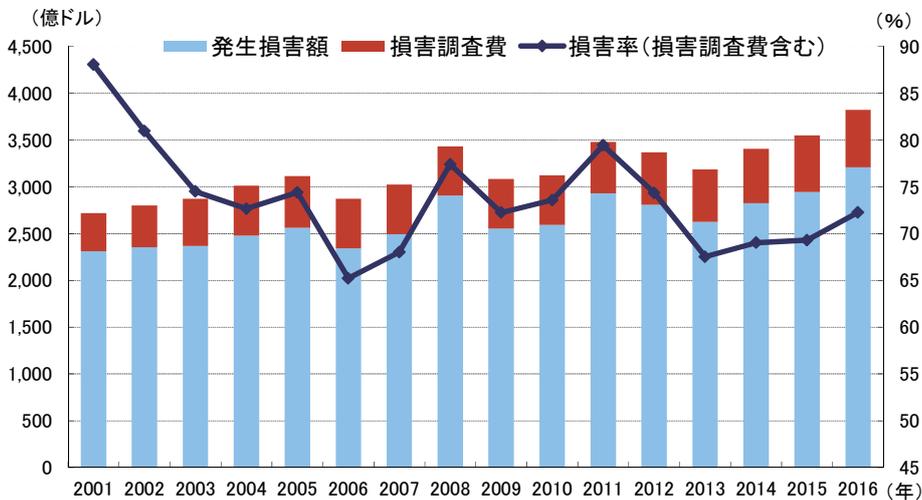


(出典) 《図表 1》に同じ。

- ◆正味収入保険料は、2015 年の 5,205 億ドルから 2.6%増加して 5,340 億ドルへ(《図表 2》参照)。
- ◆多くの保険会社が保険料率の引上げを継続し 7 年連続の増加となったが、厳しい競争環境や米国の控えめな経済成長を反映して、引上げ率は年々縮小³⁾。
- ◆種目別では、個人自動車保険が 7.3%と高い伸び率を示した。

2. 損害率

《図表 3》保険金の推移



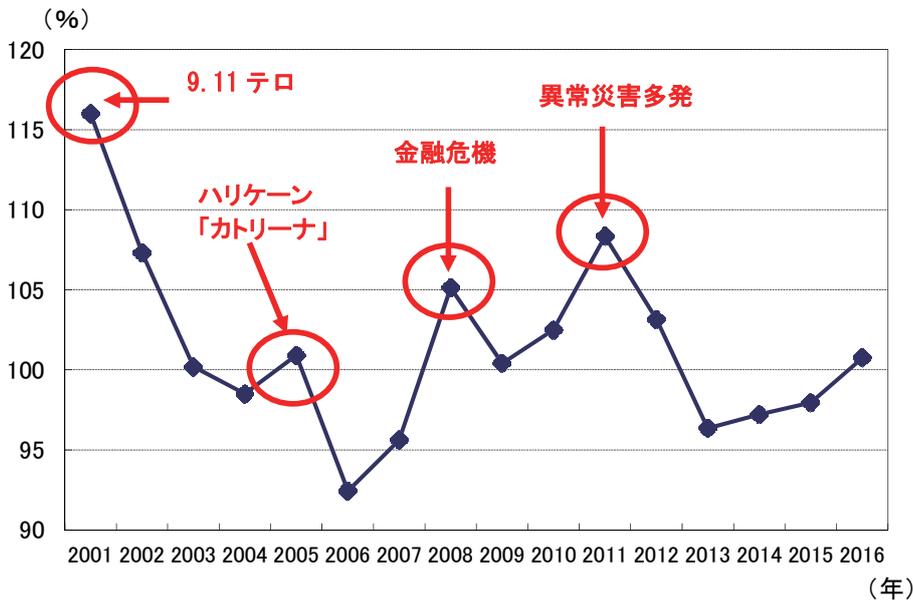
(出典) 《図表 1》に同じ。

- ◆損害率は、2015 年の 69.3%から 3 ポイント悪化して 72.3%に(《図表 3》参照)。
- ◆発生損害額(損害調査費含む)は 2015 年の 3,550 億ドルから 3,825 億ドルに増加。
- ◆主要種目では、個人自動車保険の損害率が 2015 年の 79.4%から 82.1%に悪化し、企業自動車保険も 2015 年の 81.6%から 83.7%に悪化している。

³⁾ Ibid.

3. コンバインド・レシオ

《図表4》 コンバインド・レシオの推移



(出典) 《図表1》に同じ。

- ◆コンバインド・レシオは、2015年の98.0から100.8に悪化し、4年ぶりに100を超過（《図表4》参照）。
- ◆2016年は、10月のハリケーン・マシューを含め、43件の異常災害に見舞われた⁴。1980年以来最多件数であり、異常災害がコンバインド・レシオを4.8ポイント押し上げた⁵。
- ◆竜巻や震災といった異常災害以外の自然災害にも多く見舞われた⁶。
- ◆自動車保険の事故率上昇、損害額の上昇も業績の悪化要因となった。

4. 支払備金⁷

米国損保業界全体で見ると、2016年の支払備金の取り崩し額は前年を下回った。主な要因としては、AIGが賠償種目を中心としたロングテール種目に関し、約56億ドルを積み増したことが挙げられる⁸。なお、AIGは2017年1月に、このロングテール部分に生じる保険金支払いの80%を補償する再保険契約をBerkshire Hathaway傘下のNational Indemnity Companyと締結した旨発表している⁹。

⁴ The Property Casualty Insurers Association of America, “PCS® Full-Year 2016 Catastrophe Review”, 2017, p.1.

⁵ A.M. Best, *supra* Note 2, p.2.

⁶ A.M. Best, *supra* Note 2, p.6.

⁷ 過年度の支払備金の取り崩しが発生すると、その分保険引受利益が増加し、コンバインド・レシオを下げる効果がある。

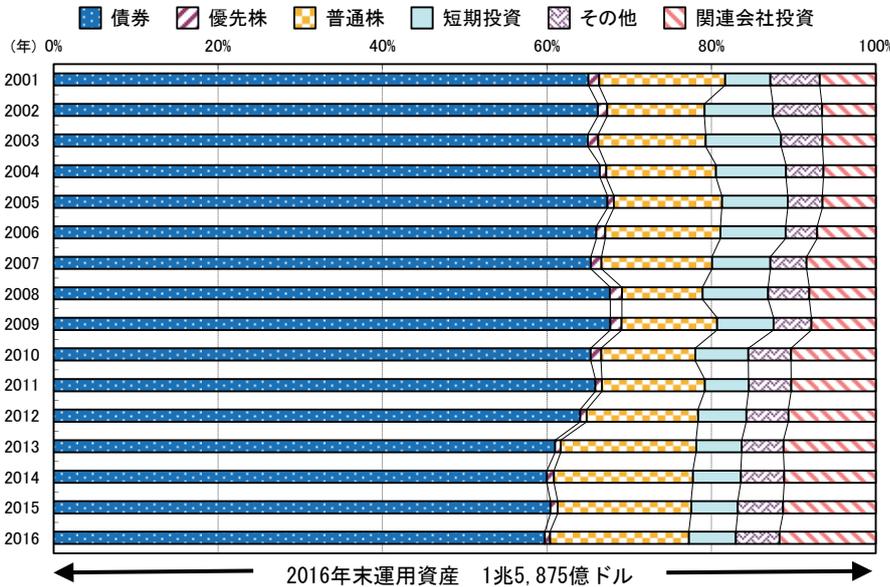
⁸ AIG, “AIG REPORTS FOURTH QUARTER 2016 RESULTS”, February 14, 2017.

⁹ AIG, “AIG Partners with Berkshire Hathaway Unit on Reinsurance Agreement”, January 20, 2017.

5. 運用資産状況

(1) 運用資産のポートフォリオ

《図表 5》 損害保険業界の運用資産構成の推移



◆運用資産は、2015 年末の 1 兆 5,313 億ドルから 1 兆 5,875 億ドルに増加（《図表 5》参照）。

◆ポートフォリオの内訳

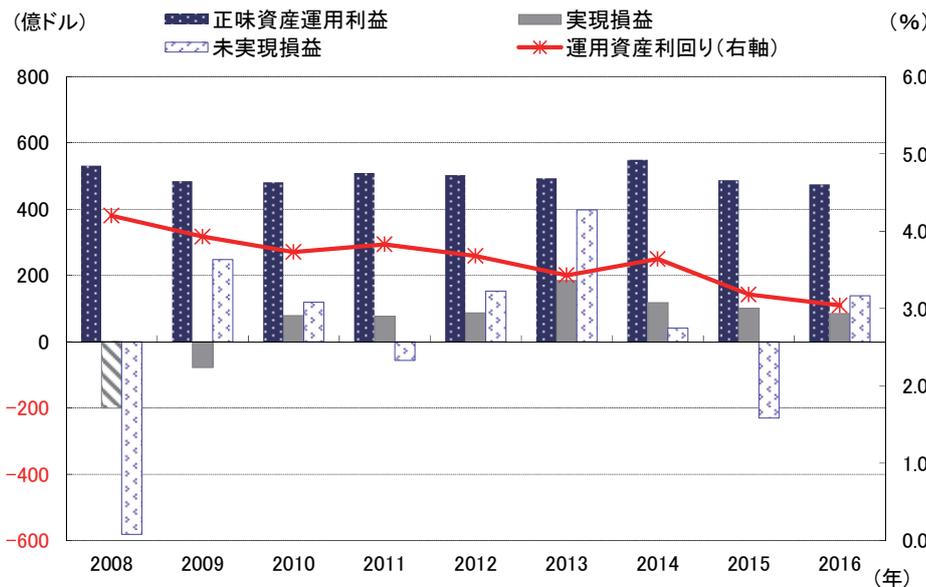
- ・債券：59.7% (60.4%)
- ・優先株：0.7% (0.9%)
- ・普通株：16.9% (16.2%)
- ・短期投信：5.7% (5.7%)
- ・関連会社投資：11.7% (11.3%)

※カッコ内は 2015 年の値

(出典) 《図表 1》に同じ。

(2) 運用損益

《図表 6》 運用損益の推移



◆主に利息と配当金収入からなる正味資産運用利益は、2016 年は前年から 2.7%減少して 474 億ドルとなった（《図表 6》参照）。

◆厳しい投資環境が続いており、運用資産利回りは前年から 0.2%低下して 3.0%に。

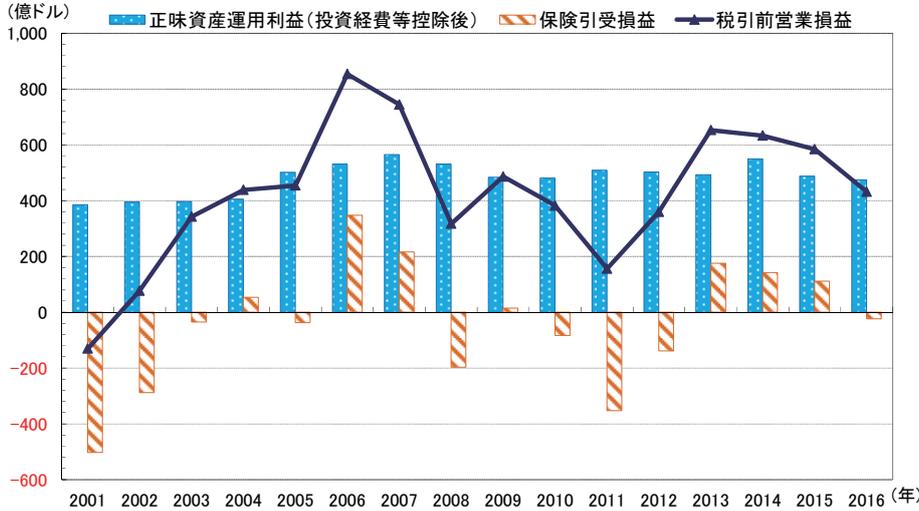
◆株式の売却等に伴う実現利益は、前年から 15.8%減少して 85 億ドルに、未実現利益は前年のマイナスから 138 億ドルのプラスに転じた。

(出典) 《図表 1》に同じ。

6. 損益と契約者余剰金

(1) 税引前営業損益の推移

《図表 7》 税引前営業損益の推移



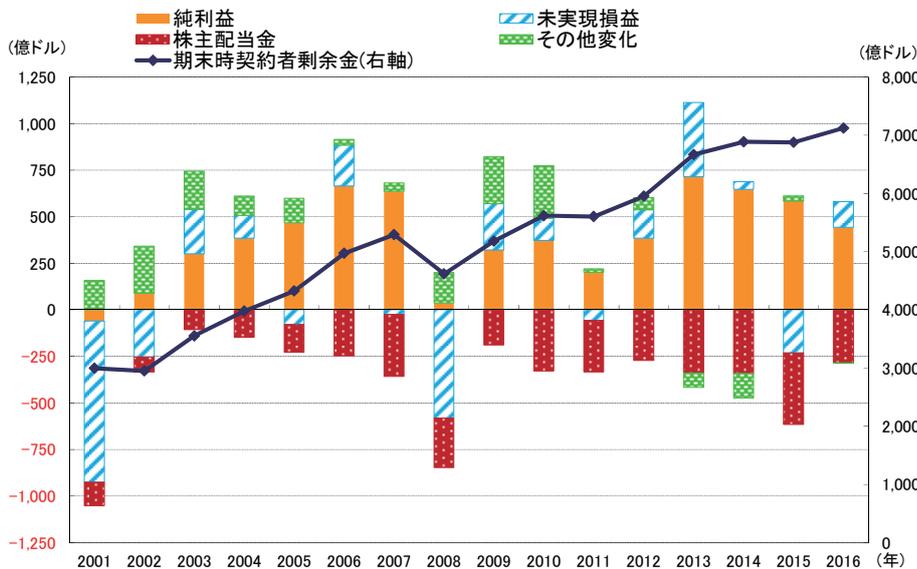
(出典) 《図表 1》に同じ。

◆保険引受利益と投資収益双方の減少により、税引前営業利益は前年から 26.1%減少して 432 億ドルに（《図表 7》参照）。

◆純利益は、運用収益の減少なども加わり、前年から 24.0%減少して 443 億ドルとなった。

(2) 契約者余剰金とその増減要素の推移

《図表 8》 契約者剰余金とその増減要素の推移



(出典) 《図表 1》に同じ。

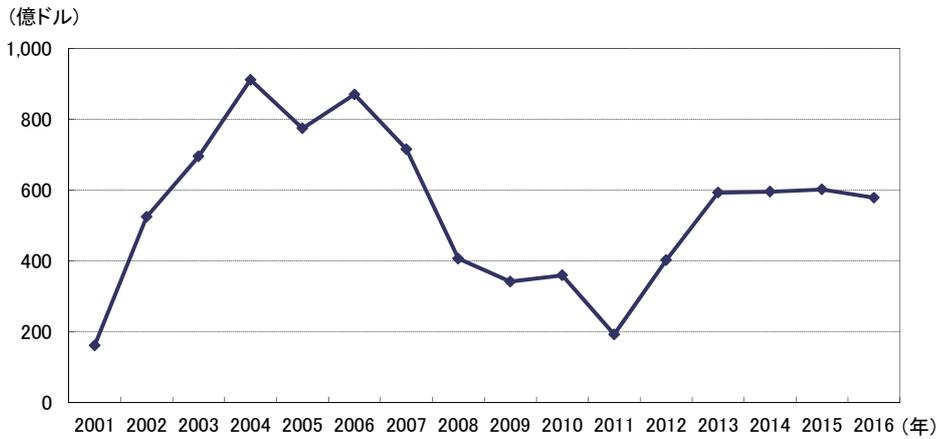
◆保険会社の資本に相当し、支払余力を測る指標の1つである契約者剰余金は、7,123 億ドルに増加し、過去最高水準に達した（《図表 8》参照）。

◆11月の大統領選後に株価が上昇したことが、未実現利益を押し上げた¹⁰。

¹⁰ A.M. Best, *supra* Note 2, p.5

7. 営業キャッシュフロー¹¹

《図表 9》 営業キャッシュフローの推移



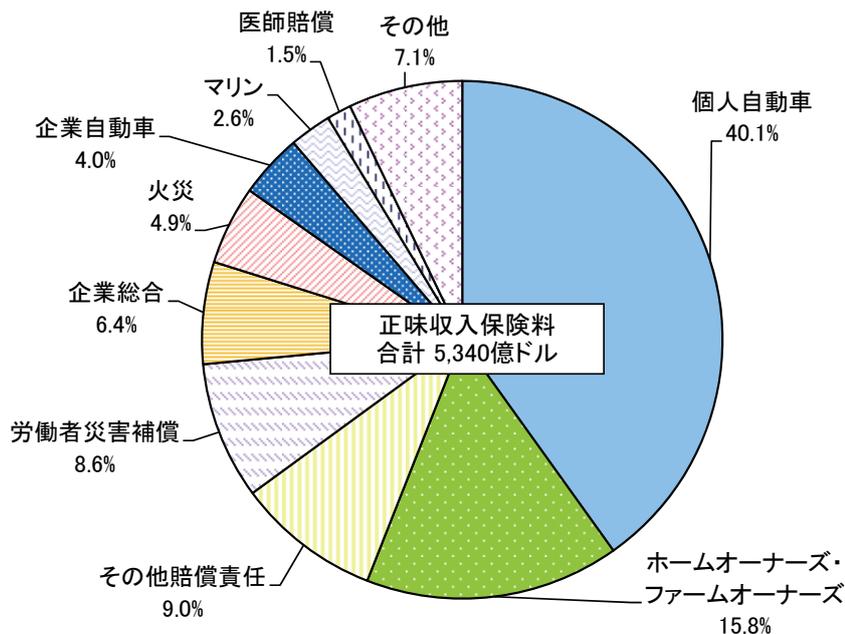
◆2013 年からほぼ横ばいの状態が続いていたが、2016 年は前年から 3.9%減の 579 億ドルに（《図表 9》参照）。

（出典）《図表 1》に同じ。

Ⅲ. 主要種目の成績概況

2016 年の米国損害保険市場の正味収入保険料は、個人保険分野で 2,987 億ドル、企業保険分野で 2,270 億ドルとなっている¹²。SNL Financial のデータによると、企業保険分野のウェイトは 2013 年から減少傾向にあり、個人保険分野のウェイトは 2015 年の 54.4%から 2016 年は 55.9%と増加している。種目別割合を見ると、個人自動車保険が 2015 年の 38.1%から 40.1%に増加しており、その他種目は前年から横ばいか微減している（《図表 10》参照）。

《図表 10》 損害保険種目別保険料割合（2016 年）



（出典）《図表 1》に同じ。

¹¹ 保険引受および運用を源泉として得られた、新規投資などに充てることのできる資金のこと。

¹² 傷害・健康保険（83 億ドル）を除く。

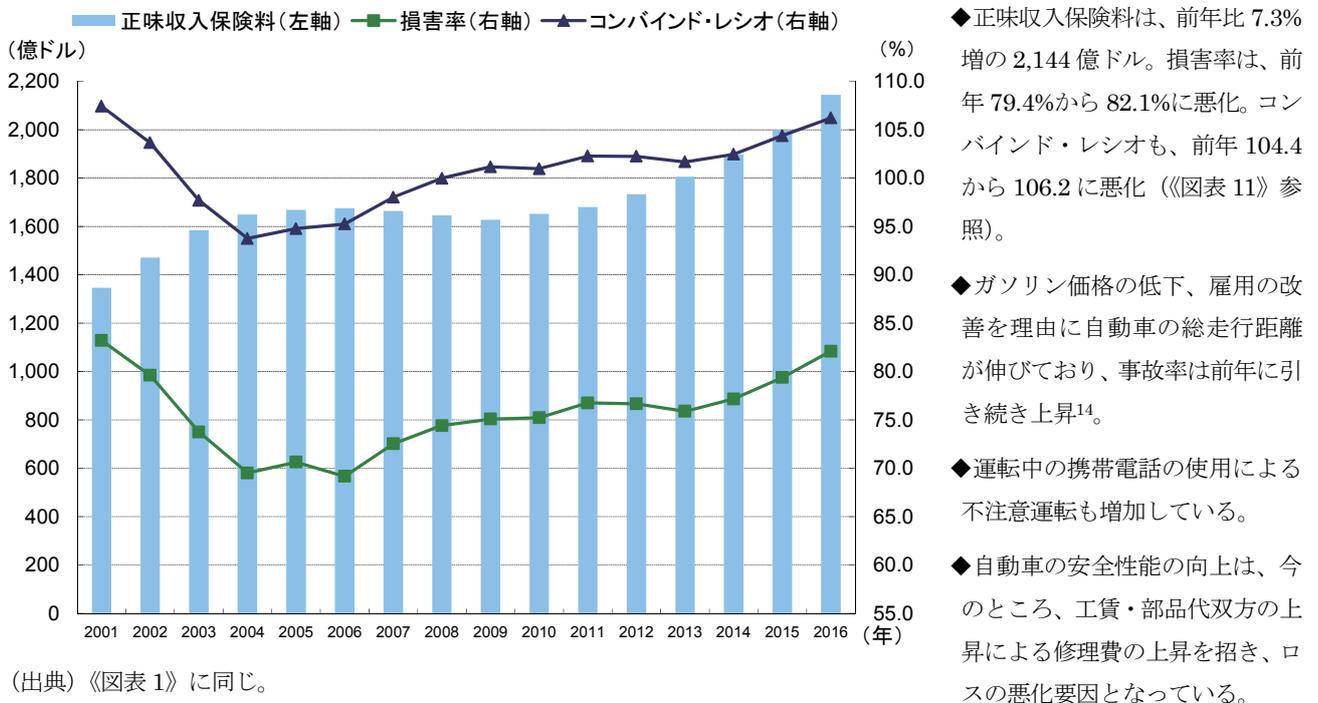
1. 個人保険分野

個人保険分野は、自動車保険とホームオーナーズ保険を柱としている。2016年の個人保険分野の正味収入保険料は、前年比5.6%増の2,987億ドルとなった。損害率は2015年の74.2%から76.7%に悪化し、コンバインド・レシオは2015年の100.7から102.5に悪化した。

前年と比較すると、事業費率は微減している。これは、主力の個人保険分野において、新技術の導入やシステムの改善が進んだほか、多様なメディア・媒体を活用した広報活動がコストの削減に功を奏したものと見られる¹³。

(1) 個人自動車保険

《図表 11》個人自動車保険の保険料、損害率、コンバインド・レシオの推移



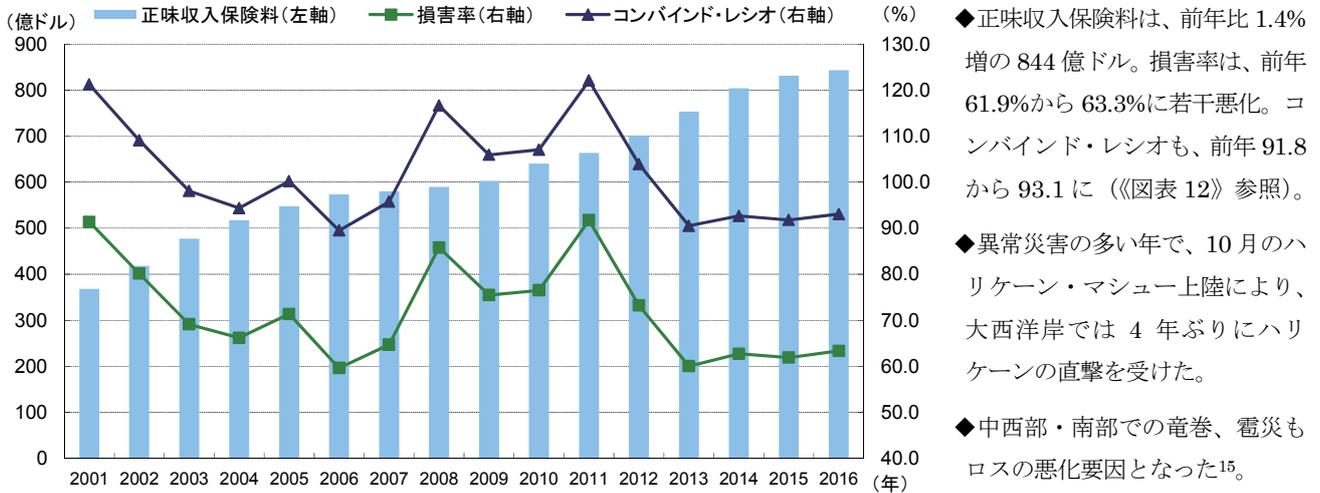
(出典) 《図表 1》に同じ。

¹³ A.M. Best, *supra* Note 2, p.6.

¹⁴ A.M. Best, *supra* Note 2, p.7.

(2) ホームオーナーズ保険

《図表 12》 ホームオーナーズ保険の保険料、損害率、
コンバインド・レシオの推移



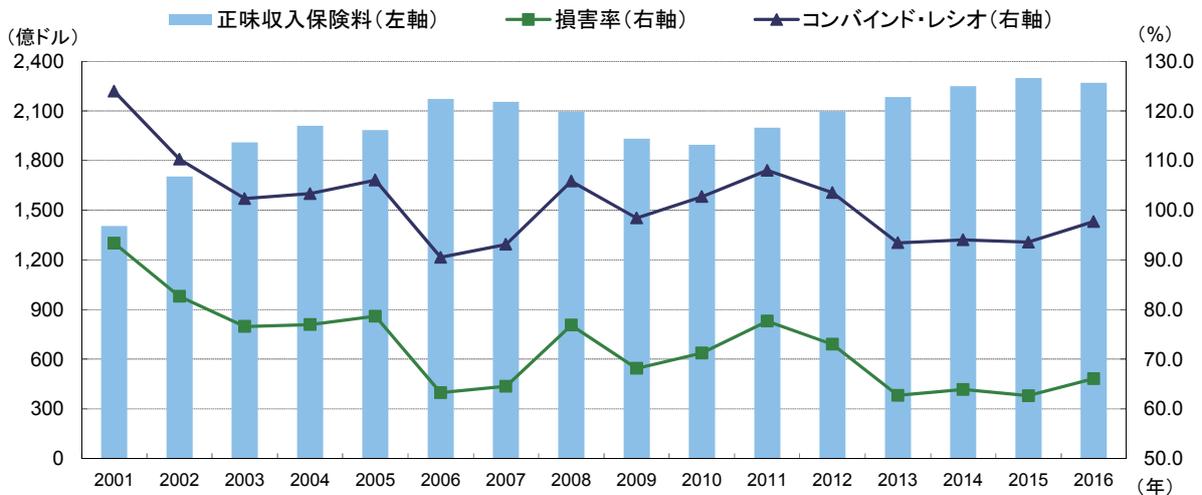
(出典) 《図表 1》に同じ。

2. 企業保険分野

正味収入保険料は、前年比 1.2%減の 2,270 億ドルとなった。損害率は、前年 62.6%から 66.1%に悪化し、コンバインド・レシオも、前年 93.6 から 97.7 に悪化した (《図表 13》参照)。個人保険分野と同様、異常災害の増加や、自動車保険のロスの悪化が業績悪化の主要因と見られる¹⁶。

近年、企業保険分野では、インターネット募集やインターネットを介しての顧客とのコミュニケーション手段の拡充に取り組む動きが加速している。特に、モバイルでアクセス可能なプラットフォームを採用するケースが増えている¹⁷。

《図表 13》 企業保険分野の保険料、損害率、コンバインド・レシオの推移



(出典) 《図表 1》に同じ。

¹⁵ Ibid.
¹⁶ Ibid.
¹⁷ Ibid.